

H30科学館の事業体系	事業内容等
I 学習普及活動	
1 展示事業（特別事業）	
事業1 特別事業	
(1) コロツ・クルの夏休み/冬休み	長期休暇期間の企画展として開催。プラネタリウム特別番組をメインに、無料開放型のワークショップや実験ショー、講演会などを集中的に実施・展開する。
2 実験実習事業	
事業2 講演・講座	
(1) 市民科学講座「サイエンス・セミナー」	自然科学の最新の研究や話題について提供し、広く市民への自然科学の普及啓発を図る。名誉館長、顧問による講演。
(2) 講演会「野鳥講演会」	野鳥の専門家を招き、野鳥の魅力について話を聞き、自然保護の理解を深めるとともに自然保護の輪を広めることを目的とする。
事業3 実験実習・体験講座	
(1) 科学館クラブ	科学館の基幹事業となる、小中学生を対象とした連続講座。天文・理科実験・電子工作などの5コースの選択制。前・後期各10回。
(2) 親子でチャレンジ！わくわく実験室	暮らしや自然の中の不思議について、実験実習を通じて親子で学び、科学への興味・関心を育む連続講座。前・後期、電気、磁石、植物の不思議など。
(3) こども科学博士	「親子でチャレンジ！わくわく実験室」への導入を目的とした入門編の単発講座。主に食や化学反応、理科工作をテーマに取り上げる。
(4) パソコン基礎講座	高齢者でパソコン初心者に、基本操作方法を覚えてもらい、暮らしの中での活用に役立つ。PCの基礎、表計算、デジカメなど。
(5) 地学体験学習	地学分野の様々な体験メニューを提供し、鉱物や化石等に関する興味関心を高める。化石クリーニング体験、宝石磨き、虫入り琥珀磨き、鉱物標本作りなど。
事業4 ものづくり教室	
(1) 市民木工教室	大人向けの高度な木工。「木馬の製作」「花器の製作」など。
(2) 親子でつくる木の工作室	小学3・4年生と保護者（定員10組）。からくりなど部材の組み合わせや機構を取り入れた木工を親子で体験し、ものづくりの基本や道具の使い方を学ぶ。
(3) とんとん教室	小4～中学生。木工の基本となる工具の使い方や簡単な工作を通して、ものづくりに興味関心を持ってもらう。「木製万年カレンダーの製作」など。
(4) 大人のための電子工作	大人向けの高度な電子工作。工作の楽しさ、ものづくりに興味関心を持ってもらい、その楽しさを家庭や地域に伝えてもらう。
(5) キッズ電子工作	小4～中学生を対象としたやや難易度の高い電子工作。道具の使い方や工作の楽しさを学ぶ。オルゴールごま、LEDライトなど。
(6) 初歩の電子工作（仮称） ※新規	小学校3～4年生を対象に、簡単なハンダ付け工作を体験してもらう入門編講座。
(7) 親子かんたん電子工作室	夏・冬休み期間。親子で電子工作キットの製作に取り組み、一つの作品を作り上げる。
(8) 糸のこ体験工作	入館者に糸のこを使用した簡単な木の工作を体験してもらい、ものづくりの楽しさを感じてもらい、冬期間の閑散期（1月末～3月下旬）開催。キーホルダー作りなど。
事業5 野外活動	
(1) 自然観察会	フィールドワークを通じ、実際の自然の中にある生物、植物、鉱物、地層などについて実地体験する。「嵐山の自然観察」「化石採集会」「シロガケ生態学習会」など。
3 イベント・行事	
事業6 科学イベント	
(1) サイエンススタジオ	祝祭日や夏・冬休みに開催するフリーイベント。事前申込み不要で来館者が気軽に遊びの中から科学に触れあえる機会を提供する。音のふしぎランド、サイパル科学縁日など。
(2) サタデーサイエンスひろば	毎週土曜日の午後に開催する公開実験ショー。来館者が科学を楽しみ、興味を持ってもらうことが目的。テーマは月替わり。「元素」「炎と爆発」「科学マジック」など。
(3) 低温実験	土・日開催。低温条件下における様々な自然現象を学ぶため、雪や氷を対象とした各種実験を行う。過冷却水の実験、ダイヤモンドダストの観察、-30度でのシャボン玉など。
(4) 春・秋の科学館まつり	科学館で実施している実験実習活動の内容を紹介する機会とし、常設展示・プラネタリウムの無料開放及び様々な科学イベントを行う。
(5) ミニマイコンカー教室	ミニマイコンカー製作や競技を通して、創意工夫やもの作りの大切さを知ってもらうとともに、最新のマイコン技術に触れてもらう。旭川工業高等学校との共催。
事業7 各種行事	
(1) 科学の夢の図画コンクール	子どもたちが科学の夢に関する絵画を自由な発想で楽しく表現することで、科学的な探求心と想像力の伸長を図り、科学に対する親近感を助長させることを目的とする。
(2) 「宇宙の日」関連行事	「宇宙の日」記念行事として「『宇宙の日』全国小・中学生作文・絵画コンテスト」（一般財団法人日本宇宙フォーラム主催）に応募する作品を募集し、全国展に出品する。
(3) 科学技術週間行事	科学技術について広く一般に理解と関心を深めてもらい、日本の科学技術の振興を図る。文部科学省作成による一家に一枚シリーズポスターの配布。28年4月18日～24日。
(4) 科学技術映像祭入選作品上映会	優れた科学技術に関する映像を選奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的とするもので、これらの入選作品を上映する。（財）日本科学技術振興財団ほか主催。

H30科学館の事業体系	事業内容等
4 天文普及事業	
事業8 プラネタリウム事業	
(1) プラネタリウム一般番組	時々の星空や天文現象を、ドーム映像も織り交ぜながら投影し、専門のスタッフが直接解説し、多様な方々への天文知識の普及を図る。約40分の番組。
(2) プラネタリウム幼児番組	幼稚園や保育所（園）等、未就学児童の団体向け幼児番組を投影し、星や宇宙に興味を持ってもらう。20分程度の番組。季節ごとに切り替え。
(3) プラネタリウム学習番組	学校教育における天文学習を支援するため学習指導要領をもとに小中学生などの団体向けの学習番組を製作し投影する。太陽、月、星座観察など。
(4) プラネタリウム特別番組	独創的な特別番組や特別事業を製作・実施するなど、プラネタリウムの効果的かつ多様な利用を推進する。ドームシアター、夜間特別番組など。
(5) 天文台・プラネタリウム連携事業	天文台とプラネタリウムの連携により観覧者の天文分野に対する興味・関心を引き起こす番組製作を行う。天文台から見ることのできる星を投影する。
事業9 天文台事業	
(1) 星の教室	最新の天文学や宇宙観測の成果等について、専門のスタッフや研究者が分かりやすく解説する教室を開催する。年6回程度。座学中心。
(2) 天体を見る会	当日の星空や話題の天文現象、観望好時期になる天体をプラネタリウムで解説、季節の一等星や惑星など天体の様子を天文台の大型望遠鏡を使って観測。月1～3回程度。
(3) 親子天文博士	天文台やプラネタリウムなどの天文施設を利用して、親子で楽しく天文知識や観測方法を学ぶ。年2回、小中学生と保護者・10組。曇雨天体望遠鏡の組み立てなど。
(4) 天文台見学	来館者に天文台を見学してもらい最新の天文施設の機能を紹介するとともに実際に天体を観測。太陽黒点観測、昼間の星観測など。
(5) 出張天文講座	小中学校や公民館など市の所管の施設へ出向き天体望遠鏡や各種機材を使って天文授業や観望会を行う。ビデオとPC学習、望遠鏡で太陽観測など。
(6) 夏・冬休み天文教室	天体望遠鏡の製作を通して、原理や仕組みを学び天文への興味と関心を育む。望遠鏡作成、プラネ、常設展示体験など。
(7) コズミック・カレッジ	小4～中学生。天文・宇宙に関わる工学技術の仕組みや構造を、模型飛行機やモデルロケットの製作を通じて、楽しみながら学ぶ。
5 学校連携・人材育成事業	
事業10 学校連携事業	
(1) 科学館体験学習	小中学校の学校団体利用に際し、学年や目的に応じた様々なプログラムを用意し、理科や生活科、更には総合的な学習の時間などの課外授業を支援するとともに、職場体験学習などにより科学館と学校教育との連携を図る。小中学校の理科や生活科、総合的な学習の時間において、科学館を有効に活用してもらうため、小中学校の団体見学を受け入れる。常設展示、プラネ、天文、実験工作、サイエンスショー、低温実験などのプログラムメニューあり。
(2) 巡回実験教室	来館が難しい子どもたちへの自然科学普及啓発事業の一つとして学校や子ども会などへサイエンスカーで出向き工作実習や公開実験を行う。整理休館日7回。
(3) プラネタリウムの学校授業での活用	小中学校と連携しプラネタリウムを学校の理科に活用し、昼間の星空の下、天体観測を行うことのできる実践的な授業のプログラム作成を目指す。
(4) 教員のための博物館の日の共催	科学館で開催される教員向け説明会の共催。旭川市科学館、旭川市博物館、旭川市旭山動物園、彫刻美術館ほか。7月実施予定。
事業11 人材育成事業	
(1) 実習生の受入れ	学芸員資格取得を希望する博物館実習生を受け入れ、将来博物館等に関わる人材を育成する。科学館の補助的業務を中心に普及事業、展示案内を体験。
(2) 人的ネットワークづくりと人材育成	他の科学館や博物館、公的研究機関や各種学会との人的ネットワークづくり推進する。共同で研究事業や講演会、観察会の開催や研究大会、研修会への参加など。
(3) サイバル理科研修会	小中学校の理科授業で取り上げる実験実習についての課題を科学館の設備や事業等を活用しながら解決することを目的とする理科実験観察技能向上のための研修会。
(4) 知育・理科遊び研修	保育士や児童館指導員などを対象に、簡単・安全に再現可能な理科実験や、理科教材をつかった工作などのレクチャーを行う。
(5) 教育大学生の受入れ	教育大学旭川校で実施している「教育フィールド研究Ⅰ」を受講する学生を受け入れ、社会教育に携わる人材を育成する。各種事業の様々な補助。
6 ボランティア事業	
事業12 ボランティア事業	
(1) サイエンスボランティア旭川自主事業	サイエンスボランティア旭川が企画運営する各種工作・実験教室等。日曜日科学館（毎週日曜日）など。

H30科学館の事業体系		事業内容等
II 調査研究活動		
1 調査研究活動		
事業13 調査研究活動		
(1) 太陽黒点や惑星・月などの天体観測	太陽黒点観測の継続実施ほか天文愛好家や専門家・研究者との協働による天文台運営を推進し天文観測拠点の一つとしての役割を果たす。太陽黒点観測記録の活用など。	
(2) 野外自然観察空間の生態系調査	野外自然観察空間及び周辺の生態系調査を継続的に実施し生態系の変化を定期的に観測し、指標づくりに取り組む。2年に1回（本年度実施）。	
(3) 旭川市周辺における地質調査	地元愛好家や専門家・研究者、あさひかわジオパークの会の協力により旭川周辺の地質調査ほか道内の地質に関する情報収集・発信拠点の一つとしての役割を果たす。	
(4) EPMAを使用した黒曜石ガラスの標準データの蓄積と応用	国内を含む極東アジアにおける黒曜石ガラスの標準試料の分析データ蓄積や現地調査を研究者との協働により実施し、情報収集・発信拠点の一つとしての役割を果たす。北海道教育大学旭川校、北翔大学教育文化学部、標茶町教育委員会との共同研究。	
III 情報提供活動		
1 情報提供とPR活動		
事業14 情報と自主的な学習の場の提供		
(1) レファレンスルームの運営	書籍等による情報提供のほか、顕微鏡の標本を作成し光学機器類を利用して観察を行うなど、子どもから大人まで幅広い年代の利用者が自主的に学習できる場を提供。	
(2) ホームページの運用管理	ホームページを活用して広く情報提供を行うとともに、市民や利用者とのコミュニケーションを推進し、様々な意見や提言などを反映させていく。	
(3) 市民広報、報道機関への情報提供	多様な報道チャンネルを活用し、事業活動の周知を図る。	
事業15 PR印刷物の作成		
(1) 『科学館報』の発行	科学館の施設概要、前年度の事業実績報告、当該年度の事業活動計画などを紹介する要覧を作成し関係機関などへ配布。12月発行。	
(2) 『旭川市科学館研究報告』第13号の発行	科学館で行っている調査・研究に関する報告書を作成し、科学館での調査研究活動を広く市民及び関係機関などへ公表する。天文略表1月、報告書3月発行。	
(3) 各種パンフレットなどのPR印刷物の発行	案内パンフレット、プラネ案内など、様々な印刷物を作成し広く科学館の施設概要や展示内容などをPR。館案内は外国語版（英語・簡体字・繁体字・韓国語）も作成。	
2 集客活動		
事業16 団体客の受入れ・誘致		
(1) 小中学校などの団体見学の受入れ	修学旅行や学年・クラス単位の学校授業など、小中学校等の団体見学を受け入れる。『学校利用の手引き』を作成しモデル見学コース、多彩な体験メニューを設定しPR。	
(2) 各種学会・会議等の受入れ・誘致	各種学会・会議の誘致や受け入れや市民向け事業の共催などに取り組む。	
(3) 観光関係機関・団体と連携した市外団体や観光客利用の誘致	観光関係機関等と連携して、市外の団体や観光客の誘致を図る。市観光課等が開催する誘致宣伝活動参加、道外観光関係者視察等を受け入れPRを行う。	
事業17 来館者へのサービス・意見反映		
(1) 来館者アンケートボックスの設置	科学館のより良い運営と質の高い来館者サービスを確保するため、来館者からの意見・感想などを集約する。	
事業18 他施設・市民団体・学会との連携・協働		
(1) 旭山動物園などの他施設との連携	旭山動物園など設置目的や来館者層が共通した他施設と連携しながら、小中学校の団体見学など、市内をはじめ道内各地からの来館者誘致に取り組む。	
(2) 市民団体等との連携・協力	科学館の設置目的に合致した活動を行う市民団体等との連携・協力を図り、科学館の効果的な事業活動を展開する。	